

7 九州

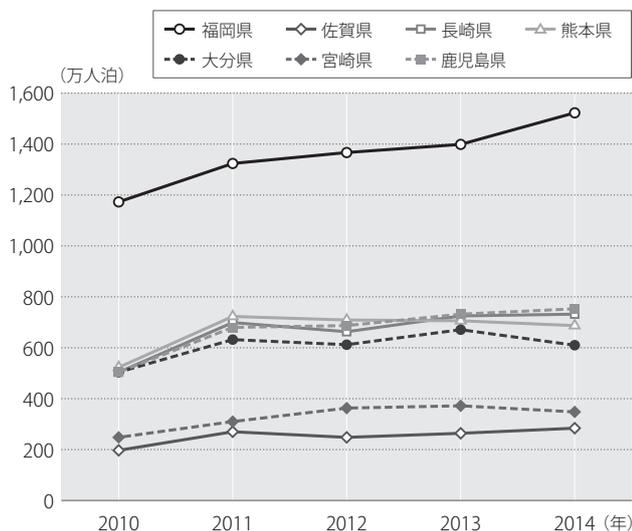
東九州自動車道の整備進展
「阿蘇ジオパーク」が世界ジオパークに認定
奄美空港へのLCC就航

(1) 都道府県レベルの旅行者動向

観光庁「宿泊旅行統計調査」によると14年1月～12月の九州各県の延べ宿泊者数について、九州全体では4,937万人泊となり、前年比1.4%増となった(図IV-7-1)。

延べ宿泊者数が増加したのは、福岡県(前年比8.9%増)、佐賀県(同7.6%増)、鹿児島県(同2.9%増)、長崎県(同0.8%増)となった。一方で、減少したのは大分県(前年比9.1%減)、宮崎県(同6.3%減)、熊本県(同2.7%減)となっている。

図IV-7-1 延べ宿泊者数の推移(九州)



県	2010	2011	2012	2013	2014
福岡県	1,173	1,324	1,367	1,399	1,523
佐賀県	197	270	248	264	284
長崎県	504	699	663	725	732
熊本県	523	723	709	706	687
大分県	504	632	612	671	610
宮崎県	248	310	363	372	348
鹿児島県	504	680	687	732	753

※～2010.3 従業員10人以上の宿泊施設を調査対象とする 単位: 万人泊
2010.4～ 全ての宿泊施設を調査対象とする

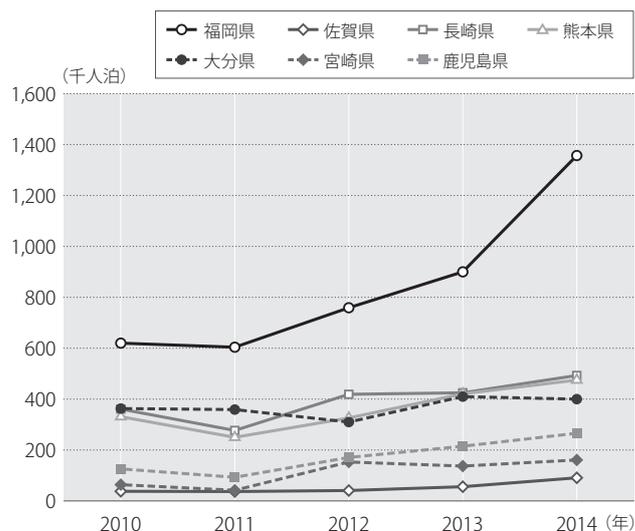
資料: 観光庁「平成26年宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

外国人延べ宿泊者数については、九州全体では324万人泊となり、前年比26.5%増と増加傾向にある(図IV-7-2)。

増加したのは、佐賀県(前年比63.7%増)、福岡県(同50.8%増)、鹿児島県(同23.8%増)、宮崎県(同17.5%増)、長崎県(同15.9%増)、熊本県(同12.8%増)となった。増加率が最も大きかった佐賀県では、14年8月に春秋航空日本が、成田/佐賀線を新規に就航した。

一方で減少したのは、大分県(前年比2.3%減)のみであった。

図IV-7-2 外国人延べ宿泊者数の推移(九州)



県	2010	2011	2012	2013	2014
福岡県	617	604	759	900	1,357
佐賀県	38	37	41	56	91
長崎県	361	277	419	425	493
熊本県	331	250	326	421	475
大分県	363	359	310	410	400
宮崎県	64	42	153	137	161
鹿児島県	126	93	171	215	266

※～2010.3 従業員10人以上の宿泊施設を調査対象とする 単位: 千人泊
2010.4～ 全ての宿泊施設を調査対象とする

資料: 観光庁「平成26年宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

(2) 観光地の主な動向

(地方・都道府県)

●九州観光のロゴマーク・キャッチコピーの選定

第二期九州観光戦略委員会は、14年6月に九州観光のロゴマーク・キャッチコピーを選定した(図IV-7-3)。

13年に策定された「第二期九州観光戦略」では、九州一体となったブランドイメージの確立が取り組み内容として掲げられている。これに関連して、第二期九州観光戦略委員会は14年3月～4月に、九州を代表する観光資源である「温泉」をテーマと

図IV-7-3 九州観光のロゴマーク・キャッチコピー



資料: (一社)九州観光推進機構

として、特に海外へ向け九州をアピールするためのロゴマーク・キャッチコピーの公募を実施した。審査の結果選ばれた図案は、一般の企業や団体などが、使用ルールに基づき海外向けの販促物などに無償で使用することが可能となっている。

●九州オルレの第4次3コースを認定

一般社団法人九州観光推進機構および九州運輸局は、九州各県の魅力的なハイキングコース(長距離遊歩道)を「九州オルレ」として認定しており、韓国市場からの誘客促進に取り組んでいる(オルレとは、韓国済州島の方で「家に帰る細い道」

のことを指し、済州島では、「済州オルレ」が整備されている。14年11月、第4次コースとして新たに3コースを認定した(表IV-7-1)。なお、第4次コースを含め、九州オルレは全15の認定コースがある。一般社団法人九州観光推進機構の発表によると、14年11月現在、韓国から累計で約5万人の利用者を記録している。

表IV-7-1 九州オルレ第4次認定コースの概要

名称	距離 (所要時間)	スタート地点	コースのみどころ
八女コース	9.2km (3~4時間)	福岡県八女市	童男山古墳、犬尾城址、八女中央大茶園、丸山塚古墳など
別府コース	11km (4~5時間)	大分県別府市	志高湖、由布岳と鶴見岳が見える展望所、愛宕神社、神楽女湖など
天草・ 苓北コース	11km (4~5時間)	熊本県天草郡 苓北町	富岡城、白崎岩、富岡海水浴場、志岐城跡など

資料：(一社)九州観光推進機構発表資料をもとに(公財)日本交通公社作成

●東九州自動車道の整備進展

14年3月に、福岡・大分・宮崎・鹿児島^のの各県を結ぶ東九州自動車道(全長436km)の日向IC~都農IC間が開通し、宮崎県延岡市と宮崎市内^がが高速道で結ばれた。また、15年3月には豊前IC~宇佐IC間および佐伯IC~蒲江IC間が開業し、大分・宮崎県内区間の全線が開通した。さらに、16年春には椎田南IC~豊前IC間が開通予定となっており、福岡県北九州市と大分県内の移動時間短縮が見込まれている。

こうした整備の進展を受け、14年9月には、大分・宮崎両県の観光関係団体によって構成される東九州広域観光推進協議会が、大分・宮崎の両県を対象としたドライバー向けの観光パンフレット「ドラマチック 東九州の旅 大分・宮崎 まだ見ぬ彼方へ」を作成した。14年9月~12月には、西日本高速道路株式会社が、大分県および宮崎県内の高速道路が最大3日または4日間が定額で乗り放題となる「東九州自動車道 大分・宮崎ドライブパス」という取り組みを実施した。

●山岳観光地の災害対策

14年9月に、長野県と岐阜県の県境に所在する御嶽山が噴火し、多くの被害者を出した戦後最悪の火山災害となった。九州地方においても、断続的な噴火が続いている鹿児島県の桜島に加え、14年8月には熊本県の阿蘇山が噴火警戒レベル2(火口からおおむね1km周辺の立入規制)となり、11月に小規模な噴火が発生した。こうしたなかで、噴火対策も各地で行われている。

阿蘇山では、コンクリート製の退避壕の整備が進められており、噴火した際、登山客が噴煙や噴石から身を守るために避難できるようになっている。御嶽山の噴火を受け、阿蘇市は14年10月には現在15カ所ある各退避壕に約10個ずつのヘルメットを常備することを決定した。11年に噴火した鹿児島県と宮崎県の県境に所在する新燃岳^{しんもえだけ}では、14年10月より登山客にヘルメットの無料貸し出しを開始した。また、鹿児島市は、公式観光サイトにおいて桜島の観光についてQ&A方式の詳細なペー

ジを作成しており、風評被害の防止に向けた情報発信を実施している。

●人気ゲームを活用したプロモーションの取り組み

14年2月、佐賀県は人気ロールプレイングゲーム(RPG)の「サガ」シリーズを制作している株式会社スクウェア・エニックスと連携し、「ロマンシング佐賀」キャンペーンを開始した。本キャンペーンは、「サガ」シリーズと発音が同じである「佐賀県」の魅力発信に、「サガ」シリーズのイメージや世界観を活用していた。同時に、「サガ」シリーズの発売25周年を記念する事業という位置づけにもなっていた。具体的には、特設サイトの開設や東京・六本木でのイベント「ロマンシング佐賀 Premium Night」開催(14年3月)、地元企業とのコラボレーションによって生まれた有田焼製品の販売などを実施した。

15年3月には、第2弾として「ロマンシング佐賀2」を実施した。特設サイトでは、コラボレーション商品の販売に加え、「ロマ佐賀トラベル」と題して佐賀県観光のモデルコースを紹介した。また、九州旅客鉄道株式会社の唐津線におけるラッピング列車の運行や、春秋航空日本が運航する成田/佐賀線の機内を「ロマンシング佐賀」仕様のデザインに装飾する取り組みの他、各種関連イベントを実施した。

●「お湯マジ!22inおんせん県おおいた」の実施

14年10月~15年3月にかけて、大分県は株式会社リクルートライフスタイルのじゃらんリサーチセンターと共同して、同県の情報発信および若年層の同県への旅行需要創出などを目的とした「お湯マジ!22inおんせん県おおいた」を実施した。この事業は、22歳の若者に限って県内100カ所以上の日帰り温泉入浴料が1日何回でも無料になるというものであり、若年層が温泉入浴を体験するきっかけを提供することで、将来的な温泉旅行需要の創出を目指した。温泉の利用には、株式会社リクルートライフスタイルが提供しているスマートフォンアプリ「マジ☆部」を用いて、対象者に無料クーポンを発行するという方法をとった。

14年11月には、オープニングイベントとして「お湯フェスinおんせん県おおいた」を別府市の市営温泉施設「北浜温泉テルマス」で開催した。イベントでは、音楽ユニットやお笑い芸人によるライブが実施された。

●大河ドラマ放映と連動した取り組み

14年のNHK大河ドラマ『軍師官兵衛』は、福岡藩の藩祖である黒田官兵衛が主人公であった。福岡県は、県内の市町村やNHK、企業、団体と「『軍師官兵衛』福岡プロジェクト協議会」を設立し、放映前の13年10月より、取り組みの一環として観光推進キャンペーン「黒田官兵衛ゆかりの地、福岡県」を開始した。13年11月には、大分県中津市を中心に、大分県および福岡県の関連団体によって組織された「大河ドラマ『軍師官兵衛』推進協議会」が設立され、同協議会はゆかりの地を巡るスタンプラリー(14年8月)などの各種事業を実施した。14年4月には、福岡市内のまちづくり団体「We Love 天神協議会」がゆかりの地を巡るガイドツアーを募集するなど、福岡県や大分県の各団体によって、さまざまな取り組みが実施された。

(広域・市町村)

●「阿蘇ジオパーク」が世界ジオパークに認定

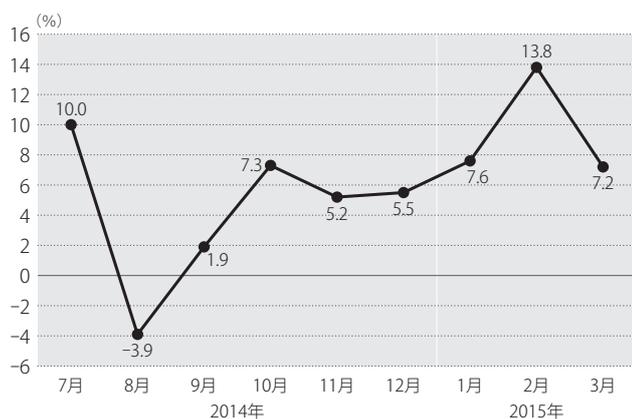
14年9月、阿蘇ジオパーク(阿蘇市・南小国町・小国町・産山村・高森町・南阿蘇村・西原村・山都町)が国内7カ所目の世界ジオパークに認定された。13年9月に日本ジオパーク委員会より世界ジオパークネットワークの推薦を受けた後、同ネットワークの現地調査などの審査を経て、正式に認定された形となる。

阿蘇ジオパークでは、「阿蘇火山の大地と人間生活」というテーマを体感できる5つのジオツーリズムコースを設定している。また、阿蘇温泉観光旅館協同組合では、加盟施設の宿泊者限定のツアーとして、送迎やガイドが付いた「阿蘇カルデラツアー」を実施している。世界ジオパークの認定後は、道の駅への看板設置や、外国人観光客向けの体験プログラム造成に向けた取り組みが行われるなど、観光振興への活用を視野に入れた動きが進んでいる。

●奄美空港へのLCC就航

14年7月、格安航空会社(LCC)のバニラ・エアが、成田/奄美大島線の定期便就航を開始した。便数は1日1往復、定員は1便当たり180人であった。国が14年度に初めて予算化した奄美群島振興交付金の補助金を活用し、就航が実現することとなった。就航時の片道運賃は8,000円から29,500円となっており、航空運賃の低額化により首都圏からの観光客増加に加え、奄美大島出身者の帰省旅行の増加が期待された。鹿児島県が実施している「鹿児島県観光動向調査」によると、14年7月以降、台風が接近した14年8月を除き、15年3月まで奄美地区における宿泊客数の増減率は、前年比プラスが続いた(図IV-7-4)。

図IV-7-4 奄美地区における宿泊者数の前年同月比の推移



資料：鹿児島県「鹿児島県観光動向調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

●屋久島で入山協力金導入の方針を決定

15年3月に、鹿児島県屋久島町は、町や県などで行う検討会議において、屋久島における環境保全のための必要な事項

を継続的に実施するための財源として、屋久島の登山客に費用負担を求める「屋久島世界自然遺産地域入山協力金」を導入する方針を決定した。基本額を1人当たり1,000~1,500円、山中に宿泊を予定している登山客には1人当たり2,000円の費用負担を求める方向で調整し、16年度の導入を目指すこととした。

検討会議では、来島者に課税する「入島税」の導入についても検討したが、課税対象、金額などに制約が生じることや、屋久島で導入した場合、徴収のための経費が大きくなることから、現時点での導入は難しいと判断した。

●由布市における観光新組織設立に向けた動き

大分県由布市は、14年4月に商工観光課内に「観光新組織準備室」を設置した。由布市は、05年に3町が合併して誕生してから5年を迎える10年度に策定した「由布市観光基本計画」の推進体制を充実させるにあたり、13年度に「観光事務調整連絡会議」を設立し、由布市内の各観光組織(計7団体)の連携強化を図ってきた。14年度には、民間と行政の協働による観光マネジメント機能を強化するために、観光新組織の設立に向け、事業内容や組織体制のあり方などについて検討を進めた。

●綾町でふるさと納税のお礼品に旅行プランを提供

14年10月、宮崎県綾町はソラシドエアと連携し、ふるさと納税者向けお礼品として「ソラシドエアで行く 照葉樹林都市ユネスコエコパーク 宮崎・綾町の旅(2日間)」の提供を開始した。ふるさと納税者向けのお礼品は、各地の特産品を提供する機会が多いところ、綾町では全国で初めて、納税先となる地域への飛行機での移動を組み込んだ旅行プランを提供することとなった。お礼品の提供対象となるのは10万円以上の納税者となり、旅行プランには、羽田/宮崎線往復航空券代と町内の宿泊代1回分(1泊2食)に、レンタカー代(2日間)または綾町の特産品(1万円相当)が含まれている。

●ハウステンボス「変なホテル」の開業を発表

15年1月、ハウステンボス(所在地:長崎県佐世保市)は、15年7月にスマートホテルプロジェクト「変なホテル~変わり続けることを約束するホテル~」を敷地内に開業することを発表した。同ホテルでは、チェックインや清掃などの館内サービスにロボットを活用することに加え、太陽光発電などの再生可能エネルギーの導入により、運営コストの削減を図り、ハウステンボス内に所在する他のホテルよりも低額の宿泊料金を実現している。客室数は全144室であり、15年7月には第一期棟として72室が先行して開業した。客室料金は、オープンブライズ(オークション方式)を採用しており、利用時期に応じて3段階の料金帯が設定されるなかで、宿泊希望者は、料金帯のなかで1,000円単位の希望料金を入札する。15年2月より、ホームページ上で宿泊予約を開始している。

(外山昌樹)